

令和6年度 磐田市立田原小学校 学校評価書

自己評価 (A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要)

本校の重点	目標・取組		評価指標	A+Bの%	自己評価	考察・改善策
学びづくり 複数教員での、児童の実態や指導補法を共有し、児童理解、授業改善をする。	①校内研修などの場を通して、学年団の情報を共有する。 ②児童理解や授業を楽しみ、学びを深める。 ③パソコンに個々の児童の様子を記録し共有する。	児童	どの教科でも安心して授業に参加できたか。(80%)	93.3	A	○今年度より、チーム担任制を実施し、複数の教員で児童一人一人に対し「広くて深い」児童理解や授業改善を進めていくこととした。具体的には、「担任ローテーション」「教科担任制」「合同授業・少人数指導」を3つのハイブリッドとして取り組んだ。2学期末の学校評価アンケートでは、「どの教科でも安心して授業に参加できた」に93.3%、「いろいろな学年の子と関わりをもつことができた」に97.1%と児童が回答をした。理由としては、「今年になってから人と関わるようになった」「1年生と6年生で関わる授業があって、1年生ともっと仲良くなれた」などがあり、多くの関わりの中で安心できる学習環境が整ったことがうかがえる。 保護者からは、左の記載した評価指標以外に「先生たちは、子どものことを理解して指導に当たっていると思う」に92.6%と肯定的な回答があった。「算数を2クラスに分けたことで、一人一人に先生目が行き届きやすくなってありがたい」「本人の学ぶペースに合わせて関わっていただき感謝しています」「わからないところを先生と一緒に解決できた」など、教科担任制による子どもと教員のよい人間関係づくりができていたことがうかがえた。また、「お子さんの話から学校でいろいろな学年の子たちと関わっていると感じる」に88.1%の回答をいただき、今年度、取り組んできた合同授業や異学年交流にも成果が表れてきていると感じた。 ※今後もチーム担任制は継続をし、さらに発展を図りたいと考えている。
		教員	教員同士で共有の場をつくり、児童の実態を把握し授業づくりができたか。(95%)	100.0		
		保護者	お子さんの話から学校での学習や先生との関わりについて、安心して授業に取り組んでいると感じているか。(50%)	87.4		
元気づくり 意図的に学年団集会や異学年交流の場を設定する。	①学期ごとに交流の場を広げていく ・学年団や地域の交流(1学期) ・1学期の交流に加えて教科や異学年の交流(2学期) ・1・2学期の交流に加えて学府の交流(3学期) ②教科交流 ・学習で制作したものを見せ合う。 ・合同体育、音楽など単元や系統性をふまえて一緒に活動をする。	児童	いろいろな学年の子と関わりをもつことができたか。(95%)	97.1	A	
		教員	交流の場をつくり、子どもたちのつながりを深める働きかけができたか。(95%)	100.0		
		保護者	お子さんの話から学校でいろいろな学年の子たちと関わっていると感じているか。(80%)	88.1		
学校関係評価委員から		まとめ				
・「チーム担任制の取組に大変期待している」といった高評価を得た。その上でさらに教職員の働き方改革につながるとよい。 ・地域の方を招いて感謝の意を示す会をする会があるとよい。		チーム担任制により、算数科では少人数指導を実施し、授業改善を図ることができた。また、異学年による算数科の合同授業では、上学年が持っている知識をもとに下学年に説明をし、子どもたち同士で算数の理解を深め合うことができた。このような改善が、教職員の働きがいとなり、働き方改革につながっていると考える。また、今後も地域と学校が協同した活動は継続していくことから、子どもたちが活動を通してより郷土愛を育むような取り組みも考えていきたいと考える。				